

【防災メモ】

～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています（プレート運動）。日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、岩盤にひずみが蓄えられます（図1）。そのひずみを解放するときに岩盤がずれ動き、地震が発生します。地震はプレート境界や海のプレート内で発生する地震（海溝型地震）のほか、陸域の浅い所（深さ約20kmより浅い所）でも発生します。この地震を「陸域の浅い地震」と呼びます（図2）。

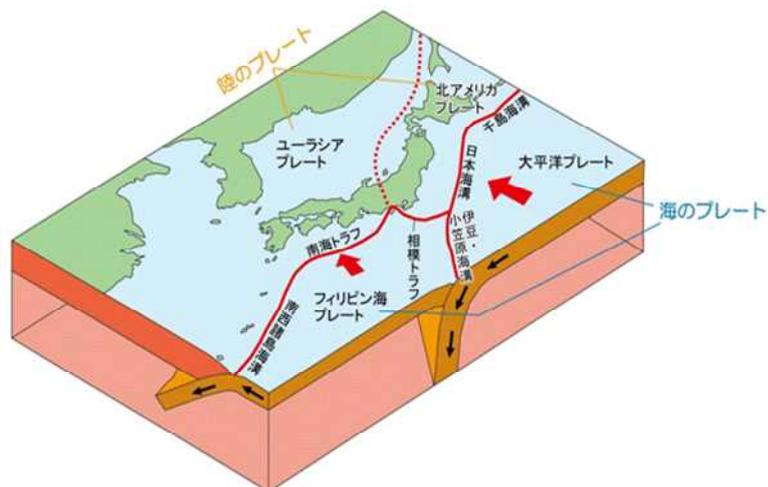


図1 日本列島周辺のプレート

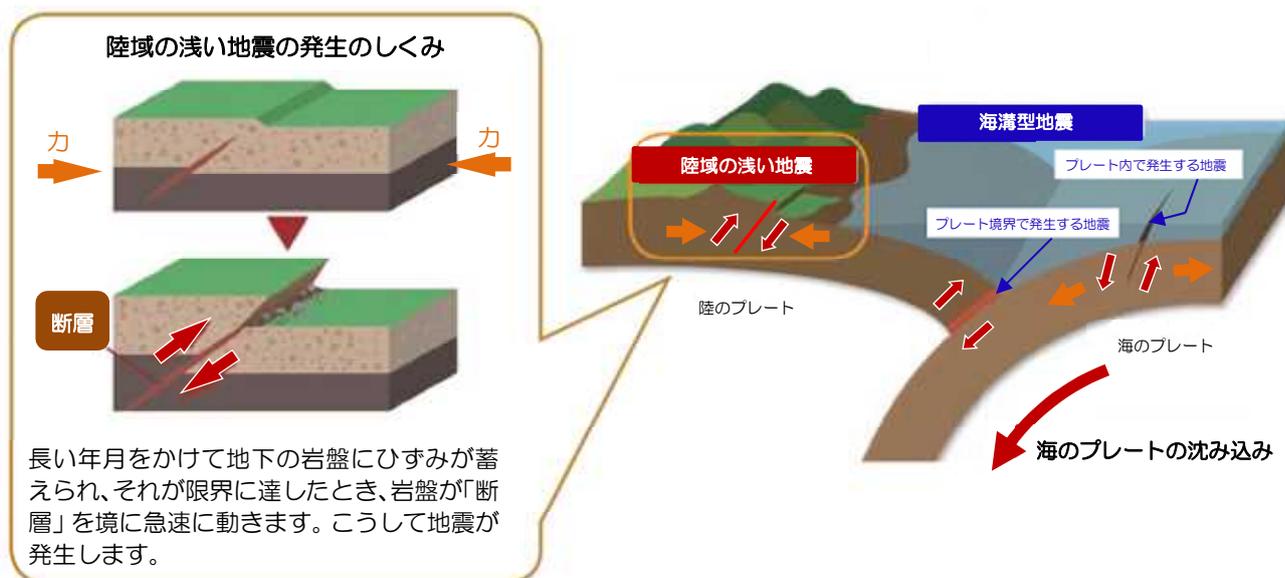


図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

陸域の浅い地震は、海溝型地震と比べて、震源が浅く人の住む地域に近い場合、地震の規模（マグニチュード）が小さくても、局所的に強い揺れを伴う場合があります。

陸域の浅い地震としては、平成7年（1995年）兵庫県南部地震、平成28年（2016年）熊本地震、平成30年北海道胆振東部地震などがあり、甚大な被害をもたらしました。

陸域の浅い地震の場合、震源に近い場所では緊急地震速報の発表が強い揺れの到達に間に合いません。突然の揺れを想定して事前に備えておくことが必要となります。日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認などをおこなしましょう。